

「生物工学会誌」 投稿規程

(1993年1月1日改正)

(2001年2月1日改正)

(2010年1月1日改正)

1. 論文は本会正会員および学生会員に限らず、会員外からも受け付ける。ただし、会員外からの投稿については下記12項の条件を付する。
2. 投稿論文は日本生物工学会（〒565-0871 吹田市山田丘 2-1 大阪大学工学部内）に到着した日をもって受付の日とする。原稿に不備のあるものは受け付けない。
3. 投稿論文の採否は編集委員会に一任する。
4. 原稿は原則として**受理順**に掲載するが、編集の都合上前後することがある。
5. 掲載された論文の著作権は日本生物工学会に属する。
6. 原稿の種類は 1) 原報文、2) ノート、3) 総合論文、4) 総説、5) 講座、6) 資料、7) レター、8) 生物学教育とする。
7. 原報文およびノートは**未発表**のものであること。
8. 原稿はE-mailによる提出が望ましい。
9. 原報文、ノート、総合論文、総説は、和文本報のほかに英文抄録を添付すること。英文抄録は、単独で理解可能であること。刷り上り1/2頁以内とするが、やむを得ないときは1頁まで認める。
10. **原報文**の1編の長さは原則として表および図を含めて刷り上り6頁までとする。
11. **ノート**は限られた部分の発見で一つの報文にまとまらないものであっても、報告する価値のあるものであること。1編の長さは刷り上り4頁以内とする。
12. 掲載料は1頁につき4,500円とする。会員外からの投稿論文については掲載料を50%増とする。
13. **総合論文**は著者の原著論文を中心とした特定分野の研究、業績の紹介を目的とした論説である。
14. **総説**は生物学に関する分野における多くの報告に準拠し、その進歩を要約する論説である。
15. **講座**は有用な理論、基本的技術あるいは実験手段の解説およびその実際的な方法をわかり易く説明したものとする。
16. **資料**は内容に著者の主観をはさまないものとする。統計的歴史的資料も含まれる。
17. **レター**は新たな実験結果を伴わないで、意見、提案などを行うもの。原則として1頁以内とする。
18. **生物学教育**は講義や学生実験での工夫、教材、新規の実験プロトコル、学生の理解度調査などの情報および問題点の提起による情報交換の場とする。
19. **校正**は原則として著者に初校を依頼するが、すみやかに校正のうえ返送すること。著者校正は誤植の訂正のみにとどめ、内容の変更は原則として認めないが、やむを得ない場合は実費を申し受ける。
20. **別刷**は校正時に注文を申し受ける。注文部数は最小100部。費用の計算は次に定める算定表に示す（下表参照）。

別刷料金表

和文誌別刷料金（表紙なしの場合）

頁	100部	150部	200部	300部	400部	500部
	円	円	円	円	円	円
1～4	3,700	4,800	6,000	7,200	8,400	9,600
5～6	5,600	7,000	8,000	10,200	12,400	14,200
7～8	7,400	9,300	10,700	13,600	16,500	19,000
9～10	9,300	11,600	13,400	17,000	20,600	23,700
11～12	11,100	13,900	16,100	20,400	24,700	28,400
13～14	13,000	16,200	18,700	23,800	28,800	33,200

（表紙つき1部25円増し）

※掲載料は1頁につき4,500円

※カラー印刷料金は1頁につき約4万円。

※請求額は、別刷料金のほかに掲載料、英文校閲料（実費）、送料（実費）に消費税が加算されます。

「生物工学会誌」投稿要領

標 題

- 原稿はA4判用紙で12ポイント40文字×30行を原則とし、和文は明朝体、英文はTimes New Roman, Centuryなどの標準的なフォントを使用すること。
- 標題は意味のない語の使用を避けて具体的に記述すること。「…に関する研究」等の無意味な語は除く。

〔例〕 活性スラッジによる抗生物質発酵廃水処理

秋川 春雄^{1*}・小山 太郎²・西原 豊¹

Treatment of wastewater by activated sludge in antibiotic fermentation

Haruo Akikawa^{1*}, Taro Koyama², and Yutaka Nishihara¹
(Department of Biotechnology, Faculty of Engineering, Tozai University, Kitakawa-cho, Suita, Osaka 565-0001¹; Nanboku Kogyo Co., Ltd., Minami-machi, Akita 011-0123²)

(脚注) *連絡先, E-mail

- Key words (英文) を5つ程度英文抄録の最後に記述すること。
- 英文抄録は刷り上り1/2頁以内とする。ただし講座、資料の場合は抄録は不要。

本 文

原報文 次の事項を遵守し、簡潔に記載すること。

- a) **緒論** 研究の系譜と研究目的を明示し、総説的記述は避けること。
 - b) **実験方法および結果** 簡単明瞭にまとめ、既発表の実験方法はその文献のみを示し、詳細は避けること。
 - c) **考察** 論旨の簡明を旨とし、著者の実験結果の意義の説明に限定し、論拠のない仮説は避けること。
 - d) **英文抄録および要約** 簡単明瞭にして十分具体的に示すこと。
- ノート 本文(項目に分けない)、文献の順に記載し、簡単な和文要旨および英文抄録を付ける。

総合論文、総説、講座および資料 本文記述は特にその形式を定めないが、図表の製作配列、文献引用は原報文と同一方法による。

表記方法

1. **本文の区分け** 大見出し、小見出しなどを明瞭にすること。見出しに番号はつけない。

〔例〕 **実験結果**

培養ろ過中の諸酵素活性 ○○○ (二字空白)

アミラーゼ ○○○ (二字空白)

脚注の符号は*, a, bなどを右肩につけ、その頁の下に横線を引き、その下に記述すること。

2. **図および表** 印刷の都合で原稿中の指定位置と幾分異なることもあるので、本文中では「つぎの表」のような表現を避け、Fig. 1またはTable 1のように書くこと。

3. **引用文献** 本文中の引用順序に著者名または事項の肩に^{1), 2)}…の符号をつけ、文末に番号順に列記する。引用文献が2名までの共著はその全員を本文中に示し、3名以上の場合、例えば小川ら³⁾とする。ただし論文末の文献欄では全著者名を列記する。和文雑誌名は日本化学総覧、英文誌名はChemical Abstractsの省略による。

記述順番: ①番号, ②著者名(姓名を記述。外国人の場合は, family name ならびに first および middle name のイニシャル), ③書名(英文はイタリックで, 編書の場合は編者名を()に示す), ④巻号または版の号, ⑤初頁-終頁, ⑥編集成書の場合は出版所名ならびにその出版地名, ⑦出版年を()に入れる。

(注) 同上, ibid などで雑誌名・書名を省略しない。本誌印刷面を参考にして;. . . の指定を明確にすること。

- 原著として発表されていない学会報告、私信などは本文中で(私信)、(未発表)として示す。原著として受理されているものは、「印刷中」として文献に記載すること。ただし論文受理の決定されていないものは(未発表)または(投稿中)として本文中に示す。また学会報告でも要旨集(abstracts)、記録(proceedings)の出版されているものについては原著論文として扱う。

〔記載例〕

- 1) Yoshimura, T. and Esaki, N.: *J. Biosci. Bioeng.*, **96**, 103-109 (2003).
- 2) Nishikawa, S. and Murooka, Y.: *Biotechnology and Genetic Engineering Reviews*, (Harding, S. E. and Tombs, M. P.), vol.18, p.149-170, Intercept, Andover, Hampshire (2001).
- 3) Madigan, M. T., Martinko, J. M., and Parker, J.: *Brock Biology of Microorganisms*, 10th ed., p.965-993, Pearson Education, Upper Saddle River, New Jersey (2003).
- 4) 卯津羅淳子, 桂樹 徹, 谷 吉樹: 生物工学*, **81**, 417-424 (2003).
- 5) 小川 宏, 山田太郎: 日本生物工学会大会講演要旨集, p.36 (2003).

*「生物工学会誌」は和文論文への引用の場合は“生物工学”，英文論文への引用の場合は“*Seibutsu-kogaku*”で示し，第70巻（1992年）以前の「醸酵工学会誌」は和文論文への引用は“醸酵工学”，英文論文への引用は“*Hakkokogaku*”で示す。

4. 字体，記号略号

- **ギリシャ文字，数字** 間違いやすい文字は発音を表示すること。〔例〕 γ （ガンマ）， ε （イプシロン），I（エル），I（イチ），I（アイ），O（オー），0（ゼロ）
- **subscript, superscript** 小さく間違いやすいから特に注意し，その位置を明確に示すこと。
- **学名表記** 固有酵素名，化合物名は英文で記述する。ただし慣用的に使用されているもの，たとえば糖化型アミラーゼ，グルタミン酸などについては和名を用いてもよい。動植物学名はイタリック体とする。
- **量単位** 国際単位系（SI）を用いることが望ましい。
- **数式** 独立した式の文字（変数）は指定のない限りイタリック体に組まれる。式の一連番号を（ ）で囲み，頁の右端に書く。文中の式は一行になるように書く。また特殊字体，複雑な subscript はなるべく使用を避けること。

図表の作成

- 図および表は本文とは別に作る。本文中にその挿入箇所を明記すること。
- 図は横幅は印刷面半裁の8.3 cm，全幅の13～17.5 cmまたは頁全体に縮小されることを念頭に，線の太さ，文字の大きさを決められたい。
- 顕微鏡写真などの縮小，拡大を正確に示すべき図では，必ず図中に標準尺度を示す線を記入する。×1000等では示さない。
- 図の題名，説明文は別紙にまとめること。
- 図および表の実験説明は，本文を見なくても大要が把握できる程度の最小限のものであることが望ましい。
- 表は肝要にして記述に値するデータのみを表とし，題名は上に，説明文は下に記述すること。表の題名はその終わりにピリオドを入れる。
- 表中のコラムの頭には適切な題をつけ，適切な略字を用いて短くすること。単位を明示すること。コラム，ラインに番号をつけることは，本文引用に必要な場合を除き避けること。

原稿送付方法

1. E-mailによる投稿。標題は<生物工学投稿>とし，本文には①標題，②表紙用タイトル（13字以内），③著者名，④連絡先（TEL，FAX，E-mail），⑤原稿種別，⑥原稿枚数，⑦受理後の英文校閲の諾否，を明記し，事務局（info@sbj.or.jp）に送付する。
2. 原稿は「本文」，「表」，「図」，「図説明文」，「英文タイトル・要旨」をそれぞれ別ファイルに収める。
3. 写真についてお願い：画像の解像度は掲載サイズ時に350dpi以上，EPS，TIFF，JPEG形式でなるべく高解像度低圧縮で送付のこと。
4. 郵送などによる投稿は1号巻末の「送り状」を添付のうえ，事務局宛に送付のこと。

<募集原稿>

原報文，ノートなどの他に下記の各欄についても広く募集。

- ①**巻頭言「随縁随意」・コラム「談話室」** 生物工学というキーワードを主幹に，思いのままをお書きいただき，また若い研究者への提言やエールをお寄せ下さい。1500～2000字程度。
- ②**バイオメディア** 刷り上り1頁（約2200字）。原則として1名の執筆者。生物工学に関連する最近の話題，または将来有用であろうと思われるトピックスを，焦点を絞り平易な解説を加えて紹介する。文献は5つ程度，図の挿入可。
- ③**特集** 刷り上り16～20頁程度。4～5名の執筆者で構成。特集をご提案いただく場合は，タイトル，責任編集者名，テーマの趣旨，セールスポイント（400字程度），予定執筆者名を付記して事務局にご連絡下さい。
- ④**生物学教育** 講義や学生実験での工夫，教材，新規の実験プロトコル，学生の理解度調査などの情報および問題点の提起による情報交換の場とする。査読あり。
- ⑤**プロジェクト・バイオ** 新規技術・バイオ関連新製品（器具，試薬，キット，食品など）について，その学術的解説（開発の裏ドラマも）を加えて紹介する。広告（有料）も歓迎。
- ⑥**大学発！美味しいバイオ** バイオ関連技術で実現した，大学発の“美味しい（食べ物に限らず）”商品開発ストーリーを紹介。見開き2ページで4000字程度。
- ⑦**Germination** 学会や学会員への提言，海外の学会報告，本の紹介など，特に若手会員や学生からの投稿を歓迎。2200字程度。
- ⑧**スピーカーズ・コーナー** 情報や意見交換を自由に行っていたり場。1500～2000字程度。
- ⑨**はじめまして** 新設の学部などの紹介。1～2ページ。
- ⑩**その他** 解説，耳よりなラボテク。